

## ●第3回教科等指導力養成講座

令和3年2月14日（土）の午前9時から午後5時まで、オンラインによる講義・演習を実施しました。第3回教科等指導力養成講座については、緊急事態宣言が延長されたことや新型コロナウイルスに係る現在の状況を鑑みて動画配信システムやビデオ会議サービスを活用して行いました。

高瀬主任指導主事からの挨拶では、「休み時間には、児童と遊び、児童理解を深めること」、「感謝の気持ちをもって一つでも多くのことを学び取る」という特別教育実習における養成塾生としての心構えについてのお話がありました。

### 【全員共通】

授業づくり②の講座では、「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」をテーマに、単元又は題材の指導計画や一単位時間の授業づくりについての講義がありました。塾生は、目標を実現するために、どのような活動を通して、どのような学びを実現させるのかを明確にすることや児童の学びの姿を具体的に想定し、指導の手だてを考えることの重要性を学びました。

学級経営①の講座は、「よい授業の基盤となる学級経営」をテーマに、信頼関係を確立するためのルールづくりや言語環境の整備等についての講義がありました。塾生は、学級経営は学校生活を支える基盤であり、授業の基盤でもあることを理解するとともに、学級経営の充実を図るための具体的な指導のポイントを学びました。

### 【小学校コース】

算数①の講座では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数科の授業づくり」についての講義がありました。塾生は、算数の授業づくりにおいては、数量や図形を見だし進んで関わる活動や、日常の事象から見いだした問題を解決する活動等の数学的活動を通して、資質・能力を育成していくことを学びました。

道徳科①の講座では、実際の授業場面を例にして、授業づくりの基礎についての講義がありました。塾生は、教材提示や話し合い等の指導方法を学び、明確な指導の意図をもって授業を組み立てることを学びました。

### 【特別支援学校コース】

特別支援学校コースの講座は、ビデオ会議サービスを活用してオンラインで講義・演習を行いました。

各教科等を合わせた指導②では、各教科等を合わせた指導の必要性、日常生活の指導と授業づくりのポイントについての講義と演習がありました。塾生は、児童・生徒の日常生活が充実し、高まるように計画的に指導することや教員同士が連携し、共通理解を図りながら指導することについて学びを深めました。

学級経営②の講座では、教職員研修センター研修部教育開発課上村指導主事から、特別支援学校での学級経営を充実させるために「集団経営」、「教室経営」、「保護者との関係」の視点から講義と演習がありました。塾生は、児童が集中でき、安全面、人権面において配慮された教室経営を心掛けるとともに、保護者と児童への指導の共通理解が、児童の力を伸ばし保護者との信頼関係につながることを学びました。



班別協議は、ビデオ会議サービスを活用して行いました。塾生は、一人一人の意見を聞き、自分の考えをまとめ、話すことができました。

### 【塾生の感想より】

- 道徳性の涵養の基盤には学級経営があり、その根幹には児童理解があることを学んだ。また、道徳科の授業では、価値観の押し付けにならないように、今日の講座での学びを生かしていきたい。
- 教材研究にあたり、まず児童の学びの姿を具体的に想定した上で、指導の手だてを考えていくことを学んだ。特別教育実習での疑問点が、今回の講座を通して理解できた。
- 児童のできない部分、困難な部分ばかりに目を向けてしまっていたが、講座を通して、児童のできる部分を見て、できることを生かしていくことが大切だと思った。

## ●第4回教科等指導力養成講座

令和3年3月6日（土）の午前9時から午後5時まで、オンラインによる講義・演習を実施しました。第3回教科等指導力養成講座については、緊急事態宣言が延長されたことや新型コロナウイルスに係る今般の状況を鑑みて動画配信システムやビデオ会議サービスを活用して行いました。

高瀬主任指導主事からの挨拶では、「学ぶはまねぶ」姿勢で特別教育実習に取り組み、指導技術を高めたいとの話がありました。

### 【全員共通】

児童理解①の講座では、児童と良好な関係を築くために大切にすることについての講義がありました。塾生は、個々の育成を図るためには、一人一人をどのように理解し指導にあたるかという児童理解と客観的・専門的な「人格の発達についての知識」に関する知識をもつことが欠かせないことを学びました。

いじめ・不登校の講座では、いじめ・不登校の現状や捉え方、いじめ防止に向けた取組や不登校児童・生徒に対する支援の仕方についての講義がありました。塾生は、いじめ防止のためには、未然防止、早期発見、早期対応が重要であることを学びました。

### 【小学校コース】

社会①の講座では、社会科の目標や学習内容、問題解決的な学習過程の例に関する講義がありました。塾生は、「社会的な見方・考え方とはどのようなものか。」「公民としての資質・能力とは、どのような能力か。」について、小学校学習指導要領解説社会編を基に理解を深め、演習を通して、問題把握の場面における学習活動の工夫について考えを深めました。

生活科の講座では、生活科の目標、特質、学習内容の理解を深めるとともに、指導計画の作成と指導・支援の進め方に関する講義がありました。塾生は、児童の「気付き」が生活科の根幹であり、気付きの質を高めることが生活科の授業づくりでは重要であることを学びました。

### 【特別支援学校コース】

特別支援学校コースの講座は、ビデオ会議サービスを活用したオンラインの講義・演習を行いました。

「個に応じた指導と評価」の講座では、教職員研修センター企画部企画課 神保統括指導主事から、「個別の指導計画」や「妥当性、信頼性のある評価」の話がありました。塾生は、子供の実態に応じて適切な指導を行うことができるよう、一人一人の児童・生徒への評価に関しては、児童・生徒理解を続けることや記録をすること、共有することや指導改善を図ることが重要であることを学びました。

「アセスメントと教育課程」の講座では、都立小金井特別支援学校高橋副校長先生から、「フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントの違い」や「アセスメントの活用方法」等についての話がありました。塾生は、アセスメントの具体例を通して児童の成長につながる支援の方法を理解することができました。

### 【塾生の感想より】

- 児童理解の講座を通して、共感的理解が大切であることを改めて学んだ。児童を認め、児童の話をしつかりと教師が受け止める姿勢が大切であると分かった。
- 社会科では、問題解決の過程のまとめる段階から逆算をし、問題をつかむ活動を考えることが大切だと分かった。また、児童には学習内容を理解するとともに、自分の住む地域に対して愛情と自覚をもたせることが大切だと学んだ。
- いじめ・不登校の講座では、教師は個人で判断するのではなく、組織的な対応を心掛けることが大切だと学んだ。日頃から様々な先生方との報告・連絡・相談を密にしていきたい。
- 生活科は、児童の気付きの重要性について学んだ。児童の気付きの質を高めるために、教師の発問や場の設定等、支援の仕方について考えていきたい。
- 個に応じた指導と評価では、児童理解に努め、「何ができるのか。」「どのようなことに困難さがあるのか。」「どの場面だと集中できるのか。」等様々な視点から児童理解に努め、指導改善を図る必要があることを学んだ。